



2016年 5月 20日

JACET-Chubu Newsletter

一般社団法人 大学英語教育学会中部支部 No. 36

知者は惑わず、仁者は憂えず、
勇者は懼れず
支部長 大森裕實
(愛知県立大学)

風薫る五月とはよく言ったもので、平成 28 (2016)年度も新緑の季節を迎えました。新年度・新学期に突入して瞬く間に一ヶ月が過ぎましたが、会員の皆様には、そのような喧騒状態にあっても、泰然自若として、研究と教育に邁進されていることと存じます。

さて、5月1日はMay Dayですが、元来は春の訪れ(生命の活性化)を祝う五月祭であり、このような生命の躍動感を伴うJACET中部支

部長としてのご挨拶も 2 回目を数える仕儀となりました。昨年度から新たな執行部体制で支部運営に努めてまいりましたが一執行部 4 役は、支部長の大森をはじめ、鈴木副支部長、佐藤事務局幹事及び今井会計担当幹事、近年にもまして円滑な学会運営が行なわれていると自己評価することができます。執行部及び役員それぞれが節度を保ちつつ各々の分掌を心得て、相互の意思疎通を怠らないことにより、学会の黒衣としての役割を果たし、昨年度初めにお約束した「学会活動の表舞台で会員諸氏が自由闊達に活躍することのできる環境整備」が実現したと思います。本年度もこの執行部体制は変わりません—「この道は我を生かす道、我この道を往く」(實篤)。

ところで、中部支部総会でも毎回言及しますので、皆様ご存じのように、JACET 中部支部も他支部同様に、少しずつ会員数が減少しています。なるほど周りを見渡せば、かつては飛ぶ鳥を落とす勢いのあった、名古屋言語研究会が主催した「白馬夏季言語学会」も活動休止を余儀なくされて 15 年になりますし、第 4 代中部支部長を務めた丹下省吾先生(2015 年 1 月 永眠)所縁の「中部応用言語学研究会」の活動も沈滞気味です。若手教員の方々が日々の教育活動に追われて、以前のように週末の学会活動に容易に参加できない労働環境が年を追うごとに厳しさを増しています。「何とか無理をしても参加したい、参加してよかった」と思っていただけのような、魅力のある支部大会、春季・秋季定例研究会、講演会を本年度も企画・実施していくつもりです。会員の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。中部支部会員数は昨年度

目次

支部長挨拶	大森裕實	1 頁
第 32 回 (2016 年度) JACET 中部支部大会の開催	大森裕實	2 頁
特別研究発表報告 片岡邦好 氏「談話における空間表象が示すもの—ことばを超えた包括的分析へ—」	鈴木達也	3 頁
学会報告 1 SEAMEO (東南アジア教育相連合) 第 51 回 RELC International Conference 2016 に参加 して	大森裕實	4 頁
学会報告 2 The First JACET ELF SIG Meeting	Leah Gilner	5 頁
研究会報告 授業学研究会 (中部)	木村友保	6 頁
事務局より		7 頁

同期と比較しますと微増はしましたが、最盛期の300名回復を目指したいと思います。

最後に、次のことを特記して、本年度当初のご挨拶を締め括ります。JACETは本年度中に一般社団法人化以来(『定款』に依拠する)2回目の社員選挙を行ないます。現在の社員の任期は2017年3月末日までです。前回同様に、中部支部からは9名の議決権をもつ社員(かつての評議員相当)が選出されることとなります。中部支部会員の皆様の声は、その9名が正面から受けとめ、支部役員会で検討したうえで、社員総会に届けることができます。また、JACET中部支部としては、次期支部長選挙を行ないます。こうした、直接民主制による支部長選定方式が中部支部において根づいたことは同慶の至りと言えましょう。

なお、本年度の中部支部事業計画及び予算について、詳しくは第32回JACET中部支部大会時に行なわれる「2016年度第1回支部総会」(愛知県立大学 [2016.6.4])に於いてご説明申し上げますので、ぜひご出席のうえ、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

第32回(2016年度)
JACET 中部支部大会の開催
大森裕實
(中部支部長・理事)

本年度の一大事業、第32回(2016年度)JACET中部支部大会は、3つの教育委員会(愛知県、名古屋市、長久手市)の後援を得て、2016年6月4日(土)に愛知県立大学(長久手キャンパス)で開催します。同大学は、2012年度に延べ1,800名の参加者を数えた第51回JACET国際大会の開催会場でもありましたから、まだ皆様の記憶に新しいところかと思えます。

今回のテーマは「英語力向上のための多様なリソース活用の新展開」です。午前の部には、将来テキストを編むことを考えている教員・院生向けのワークショップ「教員サイドが求めるTextbookと出版社サイドが求めるTextbook—テキスト出版のKnowhow(準備から出版まで)」を新たに企画しました。また、午後の部の特別講演は、日本認知言語学会及び日本語用論学会の会長職を務められた山梨正明氏(関西外国語大学教授)にお願いしました—認知言語学の視点からの英語教育展望が期待されます。また、大会テーマに即したシンポジウムでは、新進気鋭のコーパス言語研究者である長谷部陽一郎氏(同志社大学准教授)と、円熟期に入って、リソース活用と英語教育の来し方を俯瞰できる貴重な存在である尾関修治氏(名古屋大学教授)からじっくりお話を伺います。その後、特別講演者の山梨正明氏と私も加わって、フロアも交えた多角的な合同ディスカッションを実施します—

多くの学会のパネルディスカッションでは、フロアとのやり取りの時間が短く、参加者に消化不良を起こす場合があることを常々実感しておりましたので、今回この趣の時間を大切にする企画を考案してみました。もちろん、例年どおり、会員諸氏による研究発表(午前の部)や、テキスト出版数社による展示も期待できます。



ところで、本支部大会開催日は、奇しくも、
県立大学講堂において「詩人・谷川俊太郎講
演会」も開催されます。Humanitiesの極みにあ
る「詩」の世界と、Science と自認する「言語研
究及びその応用」の世界が同じキャンパスの
中で一つの宇宙を創り上げます。週末のひと
時、そうした空間に身をおいてみませんか。第
32 回支部大会への皆さまのご参加を支部執
行部及び役員会一同、心よりお待ちしております。

特別研究発表報告

2015 年度春季定例研究会

「談話における空間表象が示すもの
— ことばを超えた包括的分析へ —」

片岡邦好
(愛知大学)



2016 年 2 月 20 日

(於: 名城大学天白キャンパス)

JACET 中部支部 2015 年度春季定例研究
会が 2 月 20 日に開催され、2016 年 3 月末
をもって中部支部の研究企画委員を勇退さ
れた片岡邦好氏(愛知大学文学部教授)に
よる特別研究発表が行なわれた。2013 年度

より中部支部研究企画委員として支部運
営に貢献された片岡氏は、高校で英語教員を
務められた後、1991 年から 1998 年までの
期間、アリゾナ大学にて第二言語習得理論
及び教授法、社会言語学/人類言語学等を
学ばれ、帰国後は愛知大学にて教鞭を取ら
れている。日本社会言語科学会理事を務め
られると同時に、*International Journal of
English & Translation Studies (IJ-ELTS)*、
*Studies in Language Sciences (The Japanese
Society for Language Sciences)*、*Language &
Communication (Elsevier)*、*Pragmatics
(Journal of the International Pragmatics
Association)*、*Pragmatics & Beyond New
Series (John Benjamins Publishing Co.)* とい
った多くのジャーナルの editorial board
member も務めておられる。大変お忙しい
中、中部支部の研究企画委員として支部運
営に貢献してくださった片岡氏にあらため
て感謝の意を表したい。

今回片岡氏が研究発表のテーマに選ば
れた「空間」の概念は、我々の日常生活の中
で言葉やジェスチャーなどを通じて表出さ
れるが、人間が認知的資源として共有する
普遍的な側面と各々のコミュニティで共有
される固有の指向性(特殊性)の側面の二
つがある。片岡氏は、「商業看板における経
路描写」、「二者会話における相互行為的な

● NHK World News で日本の過去・現在・未来を考える総合時事英語	
Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS	
NHK ワールド・ニュースで学ぶ日本と世界の姿 —多読とライティングでその深層に迫る— 木村 友保/佐藤 雄大/浅井 恭子 著 B5判 120 ページ 定価(本体 2,000 円+税)	
	ビジネス・キャッツ —プロジェクトで学ぶ実践ビジネス英語— 寺内はじめ 編著 A5判 208 ページ 定価(本体 1,800 円+税) ● プロジェクトの企画、立案、プレゼンテーションからクレーム対応までのあらゆるシーンを網羅。 シミュレーションしながら鍛える実践型ビジネス英語の決定版。
	南雲堂 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361 TEL : 03-3268-2311 E-mail: nanundo@post.email.ne.jp URL: http://www.nanun-do.co.jp/

道案内」、「日・英語の『語り』中に出現した言語と非言語による空間描写」をとりあげられ、具体例を示しながら興味深く、かつ説得力溢れる研究発表を行なわれた。

絶対参照枠、相対参照枠、内在参照枠という空間参照枠の視点から商業看板に記された情報を分析し、目標地点への距離によってどの空間参照枠がより多く用いられる傾向があるかといったことが見えてくると、我々が普段何気なく見ている商業看板の記述が別物のように思われてくる。また、空間参照をジェスチャーの分析に適用すると、相互理解の指標として空間参照枠が機能していることが明らかになってくる。「日・英語の『語り』中に出現した言語と非言語による空間描写」では、同じ出来事を描写しても日本語母語話者と英語母語話者ではジェスチャーの視点が異なるという事実が示され、大変興味をそそられた。

動画を効果的に用いて発表される片岡氏の説明は明快かつエンタテインングで、多くの聴衆が1時間の発表時間があっという間に過ぎてしまったと感じたのではないだろうか。今回の特別研究発表を拝聴して、片岡氏が中部支部の研究企画委員から外れられたことがあらためて惜まれる。

鈴木達也 (南山大学)

学会報告 1

SEAMEO (東南アジア教育相連合) 第 51 回 RELC International Conference 2016 に参加して

**大森裕實
(愛知県立大学)**

JACET を代表する理事として、学術交流提携先の一つである RELC (Regional English Language Centre in Singapore) が主催する第 51 回国際大会 (2016.3.14-16) に参加した。会場は RELC International Hotel (30 Orange Grove Road, Singapore) で、大会テーマは Teaching Literacies—Emerging Pathways and Possibilities in Language Education である。本大会への参加者は約 400 名であり、日本からの参加者も 18 名を数えた。JACET の国際大会と同程度の年次大会を重ねているだけに、また大会会場がホテルを併設していることでコンパクトにまとまり、大会運営も実に円滑であった。開発が急ピッチで進むシンガポールにあって、落ち着いた雰囲気を残す(日本大使館からも近い)環境で大会が毎年実施されていることも注目に値する。また、SEAMEO (東南アジア教育相連合:11ヶ国) が背景にあり、学会としての格式の高さを窺い知ることもできた。事実、本年度は開会式にタイ王国 Dapong Ratanasuwan 教育相 (SEAMEO Council President) が臨席され、祝辞を述べられた。

招待講演者 12 名は、それぞれの招待講演の他、第 2 日目には一般参加者と談話する時間帯が設けられ、第 3 日目にワークショップを各 1 件担当し、さらに最終の総括シンポジウムに全員が参加して、ネットを利用して大会参加者から集計した質問群に回答する形で、双方向型の大会を成功に導いた。その招待講演者の中に、選択体系機能文法で有名な

M.A.K. Halliday 氏の高弟 James Martin 氏 (シドニー大学) が参加していたことは私には新鮮な驚きであり、親しく歓談できたことは予想外の収穫であった。

私自身は招待講演枠で “An Effective Approach to the Integration of Spoken with Written Grammar” という発表を行なった。パラレルセッションで同時時間帯に 11 件の発表が実施されたが、約 40 名 (会場満員) の聴衆を得ることができた。ただし、International Spoken Standard English の必要性については、賛否両論があることを改めて実感した。

なお、本年度札幌で開催される JACET 第 55 回国際大会 (2016) には RELC 講師 Ms. Marie Yeo が参加して、招待発表を行なう予定だが、事前に親交を深めることができ、極めて有意義であった。

学会報告 2

The First JACET ELF SIG Meeting

Leah Gilner
(文京学院大学)

The first JACET ELF SIG meeting was held on April 23rd, 2016 at the newly inaugurated ELF Study Hall

which houses the Center for English as a Lingua Franca (CELFL) at Tamagawa University. The event included a tour of the CELFL facilities and a talk by Director of the Center, Professor Masaki Oda.

Upon entering the ELF Study Hall, it soon becomes clear that creating a comfortable learning environment was given priority in its design. The building contains classrooms equipped in ways that facilitate flexible arrangements and multimedia presentations, gathering areas that invite casual and relaxed interaction, and decor that reflects inspired and thoughtful student collaborations.

As Director Oda explained in his talk, entitled “CELFL Reflection”, the Center represents a reorganization of the general English language programs at the University. The CELFL team is currently responsible for providing English instruction for 2,500 students in all but one department, a total of 147 classes. In addition to class-based learning, a tutoring system which provides students opportunity for individualized advising has been implemented.

毎月配信型 時事英語映像教材



無料サービス期間中

※2016年4月1日より2017年3月31日まで

Cutting-edge News on Linguabook

株成美堂

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22

TEL : 03-3291-2261

FAX : 03-3293-5490

▶ web@seibido.co.jp

The establishment of CELF embodies a shift in teaching philosophy and vision. Classroom practices are described as ELF-based in that they are guided by the desire to promote a multicultural disposition and awareness of communication strategies that have practical and useful application in real world situations. Central to the pursuit of these goals has been the adoption of employment policies that engender a multicultural workplace through the hiring of teachers who can share their experience as ELF users with their students.

As with any project of its size and scope, the opening of the Center has not been without challenges. One of the biggest tasks ahead, according to Professor Oda, is encouraging a mental switch from E-F-L to E-L-F among the university community. In this regard, the ELF Study Hall stands as a monument to commitment, at the institutional level, to innovation in ELT in Japan.

研究会報告

授業学研究会（中部）

〔 Developmental Education 〕 Chubu Chapter

英語教師なら誰もが授業をしています。よって誰もが「授業の専門家」、少なくとも「授業のことはよくわかっている」と考えがちです。しかし、果たしてそうでしょうか。筆者は高校で22年間英語教師をし、その後、大学ですでに16年間英語を教えますが、いまだに「授業」に絶対的な自信

をもって臨めたことが少ないのです。ひょっとすると「授業」というのは一般に考えられている以上に難しい代物かもしれません。というのも、学生はどの授業をとってみても、同じタイプの学生ばかりということはありませんし、教える教師もいろいろです。「成績が一番よい学生を集めたクラス」が最後まで「一番良いクラス」である保証はありません。おそらくそれぞれのクラスでその構成員が作り上げる「グループダイナミクス」が異なるからかもしれません。授業学研究会はその「難しい代物」に対していろいろな角度から研究するグループです。

研究会のメンバーも様々です。中学や高校で教えている人もいれば、なかなか教えるのが難しい大学生のいるクラスを担当している人もいます。また短大で教えてきた人もいるし、英語を専門としない学科や学部で教えている人もいます。もちろん、英語を専門とする学生を教えている人もいます。愛知県で教えている人ばかりではありません。静岡県で教えている人もいます。大学で教えていますが、小学校の英語教育に多大な関心をもってしている人もいます。医学・看護系で英語を教えている人もいます。

「授業」が多角的に把握されるべきものであるかぎり、様々な経験をもっている人が集まることが、授業学研究会を深みのある研究会にするために不可欠なのです。

2016年11月5日には『授業学を生かす英語教育イノベーション』というJACET英語教育セミナーが青山学院大学で行われます。関東、中部、関西の各授業学研究会で何が行われているか、具体的に知る良い機会となると思われます。関心のある人はぜひご参加を！

代表 木村友保（名古屋外国語大学）

事務局より

ライアン・ジャック、中野奈央、中條純子

◆ 2016 年度中部支部役員のご紹介

顧問 田中春美 (南山大学名誉教授)

理事 大森裕實 (愛知県立大学)、
鈴木達也 (南山大学)

支部長 大森裕實

副支部長 鈴木達也

事務局幹事 佐藤雄大 (名古屋外国語大学)
幹事 (支部会計担当)

今井隆夫 (愛知教育大学 [非])

研究企画委員 (21 名)

石川有香 (名古屋工業大)、伊東田恵 (豊田工業大)、今井隆夫、岩城奈巳 (名古屋大)、榎木菌鉄也 (中京大)、大石晴美 (岐阜聖徳学園大)、大森裕實、岡戸浩子 (名城大)、北尾泰幸 (愛知大)、木村友保 (名古屋外国語大)、リーア・ギルナー (文京学院大)、倉橋洋子 (東海学園大)、小宮富子 (岡崎女子大)、佐藤雄大、塩澤 正 (中部大)、鈴木達也、津田早苗 (東海学園大名誉教授)、馬場景子 (中部大 [非])、藤原康弘 (名城大)、村田泰美 (名城大)、吉川 寛 (中京大)

◆ 新入会員のご紹介

2015 年 12 月から 2016 年 4 月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です (敬称略、入会順)。

D'Angelo, James、小田節子、田村知子、Vegel, Anton、Lee, Wona、Baptiste, Eric、近藤恵理、

◆ 2016 年度 JACET 国際大会のご案内

第 55 回 (2016 年度) 国際大会は 2016 年 9 月 1 日 (木) ~ 9 月 3 日 (土) の 3 日間、北星学園大学にて開催されます。

大会テーマ

Designing English Education in a Borderless Era

「ボーダーレス時代における英語教育をデザインする」

◆ 住所変更届提出のお願い

支部会員のみなさまに、紀要や Newsletter などの郵便物をお届けできない事例が増えています。お手数ですが、転居の際には、JACET 本部事務局と中部支部事務局の両方に、住所変更届をご提出ください。詳細は、以下のサイトをご覧ください。

・ JACET 中部支部ホームページ

<http://www.jacet-chubu.org/>



Global Activator Your English, My English, World Englishes!
大学生のためのグローバル時代の英会話

「世界の英語」で体感する、グローバル時代のリアルな英会話

ネイティブスピーカーに加えノンネイティブスピーカーのバラエティに富んだ英語を取り入れました。世界の大学生たちの楽しくテンポのよい会話を軸に、リーディングやディスカッションなど多彩なアクティビティを用意しました。

塩澤 正 / Gregory A. King 著
本体価格 ¥2,000 ISBN978-4-7647-4003-7

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21
TEL. 03-3263-3828 FAX 03-3263-0716
e-mail: text@kinsei-do.co.jp URL: http://www.kinsei-do.co.jp



◆ ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。

掲示板

『JACET 中部支部紀要』第14号に掲載用の原稿（学術論文、研究ノート、実践報告、書評）を募集します。奮ってご応募ください。

締切： 2016年9月10日

刊行予定： 2016年12月

掲載料：刷り上がり1ページにつき、
1,000円の負担

長さ：論文15ページ、実践報告・
研究ノート10ページ、書評
5ページ程度

問合せ：JACET 中部支部事務局

投稿規程など詳細は、必ずホームページで最新情報をご確認ください。

中部支部紀要編集委員会

JACET 中部支部事務局

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57

名古屋外国語大学 佐藤雄大研究室内

E-mail: t-sato@nufs.ac.jp



JACET-Chubu Newsletter No. 36

2016年5月20日発行

発行者：一般社団法人 大学英語教育学会
中部支部 （代表）大森裕實

編集者：佐藤雄大 北尾泰幸 藤原康弘